

## 悪性リンパ腫（節性 C77）

リンパ節に原発する悪性腫瘍は ICD-0 分類の場合、「C77. \_」に分類される。

節外臓器（リンパ節以外）に発生した悪性リンパ腫はそれぞれの原発臓器の ICD-0 局在コードをあてる。病期分類については、原発部位を問わず、Ann Arbor 分類を用いる。

### 1. 概要

わが国の悪性リンパ腫の罹患率（2006 年）は 40 歳代から、死亡率（2010 年）は 60 歳代から増加し始め、男女ともに高齢ほど罹患率・死亡率は高い。年齢調整罹患率は男女とも漸増傾向を示し、年齢調整死亡率は男女とも 2000 年あたりまで増加し、以降緩やかな減少傾向が示されている。国際比較では年齢調整罹患率、死亡率ともに欧米先進国で高く、日本、中国、インドでは低い。

悪性リンパ腫はリンパ球に由来し、全身のリンパ組織（節性）およびリンパ節外（節外性）からも発生する悪性腫瘍の総称である。大きく Hodgkin リンパ腫と非 Hodgkin リンパ腫に分けられる。

Hodgkin リンパ腫の年齢調査死亡率は男性が女性より高い。年齢階級別死亡率は 70 歳以上で増加し、男性での増加が顕著である。非 Hodgkin リンパ腫の死亡率は Hodgkin リンパ腫の数十倍である。非 Hodgkin リンパ腫の年齢調整死亡率は男性が女性の約 2 倍である。年齢階級別死亡率は 65 歳から上昇し、高齢ほど高い。悪性リンパ腫全体の年齢調査罹患率は男性が女性の約 1.5 倍である。年齢階級別罹患率は 60 歳から増加し、男性での増加が顕著である。

### 2. 解剖

#### 原発部位

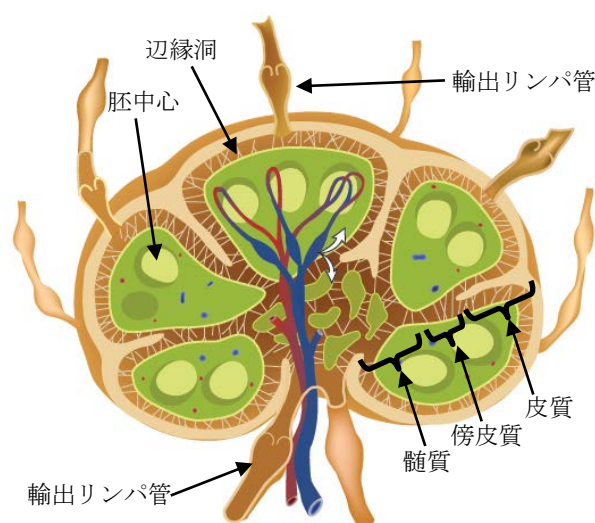
リンパ節 lymph node は、リンパ管 lymphatic duct 走行の途中でフィルター（生物学的濾過装置）のはたらきをする、粟粒ないし大豆大の器官である。小さな腎臓のような形で、凸面から多数の輸入リンパ管 afferent lymphatic venule がはいり、概して凹面から血管および少数の輸出リンパ管 efferent lymphatic venule がはいり出る。線維性の被膜が外面を包み、内部にも梁柱としてはいり込む。被膜下には辺縁リンパ洞が広がり、リンパが流入する。リンパ節の実質は、細網細胞がつくる繊細な“網構造”で指示されている。皮質 cortex とよぶ周辺部には多数のリンパ小節（後述）が並び、細胞の少ない深部を髄質 medulla という。

リンパ節には多数のリンパ球 lymphocyte のほか、形質細胞 plasma cell や大食細胞（マクロファージ macrophage・組織球 histiocyte）などがあり、リンパ球と形質細胞は抗体 antibody を産生し、大食細胞は生体内に侵入した細菌や異物をとらえる。新生されたリンパ球は、輸出リンパ管から送り出される。

リンパ球は生体防御に預かる重要な細胞で、抗体産生・遅延型過敏反応・同種移植片拒絶反応などの、免疫応答を担っている。細胞性免疫に関係する T 細胞、液性免疫に関係する B 細胞、非特異的キラー活性をもつ NK 細胞（ナチュラルキラー細胞）に区別されるが、形態上では区別できない。また B 細胞、T 細胞には各々特徴的な分化抗原が発現され、その由来、分化・成熟段階を区別することができる。

#### 遠隔転移

リンパ球は免疫応答を担うため、全身の臓器をめぐる性質があり、全身どこでも転移する可能性がある。



## 悪性リンパ腫の組織型別頻度

分類	日本	九州	九州以外
総数	3,194 例	995 例	2,199 例
B 細胞性	69%	54%	75%
T/NK 細胞性	25	40	18
ホジキン	4	4	5
総数(非ホジキン)	3,025 例	949 例	2,076 例
B 細胞性腫瘍			
前駆 B-LBL	2%	1%	3%
B-CLL/SLL	1	0.2	2
マントル	3	3	3
濾胞性	7	5	8
節外性 MALT	9	9	9
骨髄腫	8	7	9
びまん性大細胞	35	30	38
バーキット	1	1	1
T/NK 細胞性腫瘍			
前駆 T-LBL	2	2	2
鼻・鼻型 NK/T	3	3	3
菌状息肉腫症	1	1	1
AILT	2	4	2
末梢性 T	7	9	6
ATLL	8	20	2
ALCL	2	2	1
総数(ホジキン)	141 例	41 例	100 例
NLP } LP }	4%	2%	4%
NS	40	49	37
MC	37	24	42
LD	6	5	6

LBL:リンパ芽球型リンパ腫、CLL/SLL:慢性リンパ性白血病/小細胞性リンパ腫、MALT:粘膜関連リンパ組織由来のリンパ腫、AILT:血管免疫芽球型 T 細胞リンパ腫、ATLL:成人 T 細胞白血病/リンパ腫、ALCL:未分化大細胞リンパ腫、NLP:結節性リンパ球優位型、LP:リンパ球優位型、NS:結節硬化型、MC:混合細胞型、LD:リンパ球減少型。

## 3. 亜部位と局在コード

ICD-0 局在	部位
C77.0	<b>頭部・顔面および頸部:</b> 耳介リンパ節・頸部リンパ節・顔面リンパ節・頸静脈リンパ節・下顎リンパ節・後頭リンパ節・耳下腺リンパ節・耳介前リンパ節・喉頭前リンパ節・気管前リンパ節・咽後リンパ節・斜角筋リンパ節・舌下リンパ節・顎下リンパ節・上顎リンパ節・おとがい下リンパ節・鎖骨上リンパ節
C77.1	<b>胸腔内リンパ節:</b> 気管支リンパ節・気管支肺リンパ節・横隔膜リンパ節・食道リンパ節・肺門リンパ節, NOS・腕頭リンパ節・肋間リンパ節・縦隔リンパ節・胸骨傍リンパ節・肺リンパ節, NOS・胸腔リンパ節・気管リンパ節・気管気管支リンパ節
C77.2	<b>腹腔内リンパ節:</b> 腹部リンパ節・大動脈リンパ節・腹腔リンパ節・結腸リンパ節・総胆管リンパ節・胃リンパ節・肝リンパ節・回結腸リンパ節・下腸間膜リンパ節・小腸リンパ節・腰リンパ節・腸間膜リンパ節, NOS・中結腸リンパ節・膝リンパ節, NOS・大動脈傍リンパ節・大動脈周囲リンパ節・膝周囲リンパ節・肝門リンパ節・門脈リンパ節・幽門リンパ節・後腹膜リンパ節・脾門リンパ節・上腸間膜リンパ節
C77.3	<b>腋窩又は腕のリンパ節:</b> 腋窩リンパ節・上腕リンパ節・肘リンパ節・滑車上リンパ節・鎖骨下リンパ節・上肢のリンパ節・胸筋リンパ節・肩甲下リンパ節
C77.4	<b>下肢又はそけい部のリンパ節:</b> 大腿リンパ節・そけいリンパ節・クローケーリンパ節・そけいのリンパ節・下肢のリンパ節・ローゼンミュラーのリンパ節・膝窩リンパ節・そけい下リンパ節・頸骨リンパ節
C77.5	<b>骨盤リンパ節:</b> 下腹リンパ節・腸骨リンパ節・下腹壁リンパ節・骨盤内リンパ節・閉鎖リンパ節・傍子宮頸リンパ節・傍子宮リンパ節・恥骨結合前リンパ節・仙骨リンパ節
C77.8	<b>多部位のリンパ節</b>
C77.9	<b>リンパ節, NOS</b>

## 4. 形態コード (WHO 分類 2001 を一部参考としている)

悪性リンパ腫を含む血液腫瘍の WHO 分類は最新 2007 であり、今後 ICD-O 形態コードが変更される可能性が高い

病理診断名 (日本語)	英語表記	形態コード
<b>B 細胞腫瘍分類</b>	<b>B-cell neoplasms</b>	
前駆 B リンパ芽球型白血病/ 前駆 B リンパ芽球型リンパ腫	Precursor B-cell lymphoblastic leukemia / Precursor B-cell lymphoblastic lymphoma (LBL)	9836/3 *1 9728/3
<b>成熟 B 細胞腫瘍</b>	<b>Mature B-cell neoplasms</b>	
B 細胞性慢性リンパ性白血病/ 小細胞性リンパ腫	B-cell chronic lymphocytic leukemia (CLL)/ Small lymphocytic lymphoma (SLL)	9823/3 9670/3
B 細胞性前リンパ性白血病 リンパ形質細胞性リンパ腫	B-cell prolymphocytic leukemia Lymphoplasmacytic lymphoma	9833/3 9671/3
脾臓辺縁帯リンパ腫	Splenic marginal zone lymphoma	9689/3
ヘアリー (有毛) 細胞白血病	Hairy cell leukemia (HCL)	9940/3
形質細胞性骨髄腫	Plasma cell myeloma	9732/3
単クローン性ガンマグロブリン血症 (臨床的意義不明)	Monoclonal gammopathy of undetermined significance (MGUS)	対象外
骨単発性形質細胞腫	Solitary plasmacytoma of bone	9731/3
骨外性形質細胞腫	Extraosseous plasmacytoma	9734/3
原発性アミロイドーシス	Primary amyloidosis	対象外
重鎖病	Heavy chain disease	9762/3
節外性粘膜関連リンパ組織型辺縁帯 B 細胞リンパ腫	Extranodal marginal zone B-cell lymphoma (MZBCL) of mucosa-associated lymphoid (MALT) type	9699/3
節性濾胞辺縁帯 B 細胞リンパ腫	Nodal marginal zone B-cell lymphoma (MZBCL)	9699/3

濾胞性リンパ腫	Follicular lymphoma (FL) Grade 1 Grade 2 Grade 3	9690/3 9695/3 9691/3 9698/3
マントル細胞リンパ腫	Mantle cell lymphoma (MCL)	9673/3
びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫	Diffuse large B-cell lymphoma (DLBCL)	9680/3
縦隔(胸腺)大細胞型 B 細胞リンパ腫	Mediastinal (thymic) large B-cell lymphoma	9679/3
血管内大細胞型 B 細胞リンパ腫	Intravascular large B-cell lymphoma	9680/3
原発性滲出液リンパ腫	Primary effusion lymphoma (PEL)	9678/3
Burkitt リンパ腫	Burkitt lymphoma (BL)/ Burkitt leukemia	9687/3 9826/3
<b>境界領域 B 細胞増殖症</b>	<b>B-cell proliferations of uncertain malignant potential</b>	
リンパ腫様肉芽腫	Lymphomatoid granulomatosis	対象外
移植後リンパ増殖症、多彩性	Post-transplant lymphoproliferative disorder polymorphic	対象外
<b>T および natural killer (NK) 細胞腫瘍分類</b>	<b>Mature T-cell and NK-cell neoplasms</b>	
前駆 T リンパ芽球型リンパ腫/ 前駆 T リンパ芽球型白血病	Precursor T-cell lymphoblastic lymphoma/ Precursor T-cell lymphoblastic leukemia (LBL)	9729/3 9837/3
<b>成熟 T 細胞ならびに NK 細胞腫瘍</b>	<b>Mature T-cell and natural killer cell neoplasms</b>	
T 細胞性前リンパ性白血病	T-cell prolymphocytic leukemia	9834/3
T 細胞大顆粒リンパ白血病	T-cell large granular lymphocytic leukemia	9831/1 *2
侵襲性 NK 細胞白血病	Aggressive NK-cell leukemia	9948/3
成人 T 細胞白血病/リンパ腫	Adult T-cell lymphoma/leukemia (HTLV-1+, ATLL)	9827/3
菌状息肉腫	Mycosis fungoides	9700/3
Sezary 症候群	Sezary syndrome	9701/3
原発性皮膚未分化大細胞型リンパ腫	Primary cutaneous anaplastic large cell lymphoma	9718/3
リンパ腫様丘疹症	Lymphomatoid papulosis	9718/3
節外性 NK/T 細胞リンパ腫、鼻型	Extranodal NK/T cell lymphoma, nasal-type	9719/3
腸管症型 T 細胞リンパ腫	Enteropathy-type T-cell lymphoma	9717/3
肝脾 T 細胞リンパ腫	Hepatosplenic T-cell lymphoma	9716/3
皮下脂肪織炎様 T 細胞リンパ腫	Subcutaneous panniculitis-like T-cell lymphoma	9708/3
血管免疫芽球型 T 細胞リンパ腫	Angioimmunoblastic T-cell lymphoma (AILT)	9705/3
末梢性 T リンパ腫、非特異型	Peripheral T-cell lymphoma (unspecified)	9702/3
未分化大細胞リンパ腫	Anaplastic large cell lymphoma (ALCL)	9714/3
芽球型 NK 細胞リンパ腫	Blastic NK cell lymphoma	9727/3
<b>Hodgkin リンパ腫分類</b>	<b>Hodgkin lymphoma</b>	
結節性リンパ球優位型 Hodgkin リンパ腫	Nodular lymphocyte predominance Hodgkin lymphoma (NLP)	9659/3
古典的 Hodgkin リンパ腫	Classical Hodgkin lymphoma	9650/3
結節性硬化型古典的 Hodgkin リンパ腫	Nodular sclerosis classical Hodgkin lymphoma (NS)	9663/3
混合型古典的 Hodgkin リンパ腫	Mixed cellularity classical Hodgkin lymphoma (MC)	9652/3
リンパ球豊富型古典的 Hodgkin リンパ腫	Lymphocyte-rich classical Hodgkin lymphoma (LR)	9651/3
リンパ球減少型古典的 Hodgkin リンパ腫	Lymphocyte-depleted classical Hodgkin lymphoma (LD)	9653/3

\*1: WHO 分類 2001 では、9835/3 となっている。

\*2: WHO 分類 2001 では、9831/3 となっている。

## 5. 病期分類と進展度

悪性リンパ腫ではT分類-原発腫瘍、N分類-所属リンパ節、M分類-遠隔転移は用いない。病期分類はホジキンリンパ腫、非ホジキンリンパ腫で共通である。

### ■臨床病期(cS)

<b>I 期</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リンパ節領域の1領域のみに限局した病変</li> <li>節外性臓器/部位の1臓器/1部位のみに限局した病変</li> </ul>
<b>II 期</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>横隔膜の上下いずれか一側に限局したリンパ節領域の2領域以上に病変</li> <li>節外性臓器/部位の1臓器/1部位のみに病変があり、さらにその所属リンパ節に病変(その臓器/部位と横隔膜の上下が同一のリンパ節領域の病変があっても可)</li> </ul>
<b>III 期</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>横隔膜の上下両側に位置するリンパ節領域に病変</li> <li>節外性臓器/部位の1臓器/1部位のみに病変</li> <li>脾病変の伴う場合</li> </ul>
<b>IV 期</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>節外性臓器/部位の2臓器/2部位以上に病変</li> <li>節外性臓器/部位に病変があり、それが播種性に進展している場合</li> <li>節外性臓器/部位の1臓器/1部位のみに病変があり、さらにその所属外のリンパ節に病変</li> </ul>

- 頸部リンパ節は、左/右を各々別の領域として扱う
- 以下の領域は、左右合わせて一領域として扱う
  - 頭部/顔面・頸部のリンパ節 (頸部リンパ節のみ、左右別々で一領域)
  - 胸部リンパ節
  - 腹部リンパ節
  - 骨盤リンパ節
  - 腋窩リンパ節 (腋窩リンパ節は左右別々で一領域)
  - 鼠径リンパ節 (鼠径リンパ節は左右別々で一領域)
- 隣接臓器への直接的な浸潤は、分類に影響しない()
- 非連続的に存在する消化管の2臓器/2部位に及ぶ病変は、IV期に分類する
- 側性のある節外性臓器の両側病変は、1臓器の病変として扱う
- 節外性臓器の病変が単一臓器に限って、複数存在(同一臓器の多発病変)する場合は、I期と扱う。

### ◆AとB分類(症状)

各病期は以下に定義される全身症状のないAと全身症状のあるBに分けられるべきである：

<b>A:</b>	無症状
<b>B:</b>	以下の3症状のうち少なくとも1つを認める <ul style="list-style-type: none"> <li>発初診前6カ月間にみられた、原因不明の、通常体重に比べて10%以上の体重減少</li> <li>38℃をこえる原因不明の発熱</li> <li>盗汗。寝具(掛け布団。シーツなど)を換えなければならないほどずぶ濡れになる汗。</li> </ul>

### ◆肝侵襲

肝侵襲の臨床的な証拠としては、肝腫大に少なくとも血清アルカリホスファターゼ値と2種類の異なった肝機能検査異常を伴う、あるいは肝臓の画像診断で証明された異常と1種類の肝機能検査異常のいずれかを含めなければならない。

肝侵襲は常にびまん性のリンパ節外性病変とみなされる。

### ◆脾侵襲

画像診断で確認された脾が触知できるほどに腫大していれば、脾侵襲の臨床的な証拠として認められる。

### ◇リンパ節病変およびリンパ節外病変

リンパ構造には次のものがある。

- ・リンパ節・Waldeyer輪・脾・虫垂・胸腺・Payer板
- リンパ節はいくつかの領域にグループ分けされ、1領域あるいはそれ以上(2, 3, など)が侵されることもある。脾はSで示され、リンパ節外臓器あるいは部位はEで表示される。

## ◆肺侵襲

一葉に限局した肺侵襲,あるいは同側リンパ節腫大の肺門部周囲進展,あるいは肺侵襲の有無にかかわらず,肺門リンパ節腫大を伴う片側胸水,はいずれも限局性のリンパ節外性病変とみなされる。

## ■病理学的病期分類(pS)

この病期分類は臨床的データ以外の追加データを考慮しており,より精度が高い。病理学的病期分類は,開腹による検査と摘脾が行われたときに,その情報を付加して適用することになる。最近の治療はほとんどの場合,全身的治療(化学療法など)を含んでおり,病期確定目的で開腹術を行うことは稀なので,病理学的分類が適用されることはほとんどない。

病期の定義は臨床病期と同じ規準に従うが,これに次に述べる開腹術で得られた情報を追加する。摘脾・肝生検・リンパ節生検・骨髄生検は病理学的病期を確証するために必須である。

## ◆病理組織学的情報

これは採取された組織を表す記号によって分類される。次に挙げる表記法は, TNM 分類法で分類される遠隔転移(M1 区分)と,すべての領域を共有している。しかしながら, Ann Arbor 分類と一致させるために, Ann Arbor 分類で使用されている頭文字も併記する。

	TNM	Ann Arbor		TNM	Ann Arbor
肺	PUL	L	骨髄	MAR	M
骨	OSS	O	胸膜	PLE	P
肝臓	HEP	H	腹膜	PER	
脳	BRA		副腎	ADR	
リンパ節	LYM	N	皮膚	SKI	D
その他	OTH				

## ■進展度(臨床進行度)分類

Stage	進展度
I	限局
II	隣接臓器浸潤
III	遠隔転移
IV	遠隔転移

## 6. 取扱い規約

## 【病期分類】

造血器腫瘍取扱い規約第1版(2010)では,非ホジキンリンパ腫への適用に関する問題を認めながらも,悪性リンパ腫の病期分類については Ann Arbor 分類を採用する旨の記述があり,「AJCC が 2002 年に発行した第 6 版の Cancer Staging Manual に従い,病期分類を行う」と示されている。

## 【根治度の評価】

取扱い規約が存在しない。

## 7. 症状・診断検査

1) 検診—悪性リンパ腫に制度化された検診はない。

## 2) 臨床症状

リンパ節腫脹(圧痛が無く,可動性良好),発熱,倦怠感,盗汗,体重減少,腹満感など

## 3) 診断に用いる検査

- CT 検査: 病変の存在診断,病期診断に必須。可能な限り造影剤を使用し,頸部から鼠径までを撮影する。  
1.5cm より大きいリンパ節は異常とみなす。
- MRI 検査: 中枢神経・骨髄・軟部組織などの病変抽出に有用。

- ・ガリウムシンチグラフィ：病変の全身分布をみるための追加検査。
- ・FDG-PET：リンパ腫の病期診断に有用であるとされる。新しい方法のため現時点では標準ではないが、今後重要な役割をしめすと思われる。
- ・リンパ節生検：腫大リンパ節の生検による病理学的診断が必須。生検部位は一定以上の大きさがあれば可能な限り侵襲の少ない部位（頸部や鎖骨上窩リンパ節など）を選択する。採取された材料にて、フローサイトメトリーによる表面マーカー解析や免疫組織化学染色が行われ、確定診断に至る。最近では遺伝子検査も行われることが多い。
- ・骨髄生検：病期判定のために骨髄浸潤を確認することは必須の検査である。

### 非ホジキンリンパ腫の悪性度(取扱い規約 P116)

B 細胞性	T/NK 細胞性
<b>低悪性度 (Indolent : インドレント)</b>	
慢性リンパ性白血病 / 小細胞性 (B-CLL/SLL) リンパ形質細胞性 脾臓辺縁帯 有毛細胞白血病 MALT 節性辺縁帯 B 細胞性 濾胞性 (Grade1, 2)	大顆粒リンパ性 菌状息肉症 慢性型成人 T 細胞性
<b>中悪性度 (Moderately aggressive : 中等度アグレッシブ)</b>	
B 細胞性前リンパ球性 (B-PLL) マントル細胞 濾胞性 (Grade3)	慢性リンパ性白血病 / 前リンパ球性 (T-CLL/PLL) 節外性
<b>中～高悪性度中～高悪性度</b>	
濾胞性 (Grade 3b) びまん性大細胞型 縦隔発生硬化性大細胞型 血管内大細胞型	末梢 T 細胞性  血管免疫芽球型 NK/T 細胞性、鼻型 未分化大細胞型
<b>超高悪性度 / 急性</b>	
リンパ芽球型 バーキット (非定型含む) 形質細胞白血病	リンパ芽球型  成人 T 細胞性

## 8. 治療

治療方針－最新悪性リンパ腫アトラスより

### <ホジキンリンパ腫>

- ・ I A, II A 期：放射線療法
- ・ I B, II B, III, IV 期：化学療法 (ABVD 療法) + 放射線療法

### <低悪性度非ホジキンリンパ腫>

- ・ I, II 期：放射線療法 (+ 化学療法)
- ・ III, IV 期：watch and see (無治療経過観察)、放射線療法、化学療法 (リツキシマブ単独、CHOP 療法)

### <中～高悪性度非ホジキンリンパ腫>

- ・ I, I E 期：放射線療法、化学療法 (CHOP 療法)
- ・ II, III, IV 期：化学療法 (R-CHOP 療法)

### <超高悪性度非ホジキンリンパ腫>

- ・急性リンパ性白血病(ALL)に類似した積極的な治療が行われる。

## 1) 観血的な治療

### (1) 外科的治療

一節外臓器に発生した悪性リンパ腫は病期 I、II の場合、手術療法が適応になる場合がある。

### 2) 放射線治療—早期のホジキンリンパ腫や限局性の低悪性度リンパ腫で行われる。

### 3) その他の治療 (単剤または併用で使用される薬剤名、略語、商品名)

#### (1) 化学療法

<ホジキンリンパ腫> 進行期は ABVD (ADM, BLM, VBL, DTIC) 療法が標準治療

doxorubicin (Adriamycin, ADM, アドリアシン), bleomycin (BLM, ブレオ), vinblastine (VBL, エクザール), dacarbazine (DTIC, ダカルバジン), etoposide (ETP, VP-16, ラステット), cyclophosphamide (CPA, エンドキサン), vincristine (VCR, オンコビン), procarbazine (PCZ, ナツラン)

<低、中～高悪性度非ホジキンリンパ腫> (R-) CHOP (RTX, CPA, ADM, VCR, プレドニゾロン) 療法が標準治療

cyclophosphamide (CPA, エンドキサン), doxorubicin (Adriamycin, ADM, アドリアシン), vincristine (VCR, オンコビン), rituximab (RTX, リツキサン), methotrexate (MTX, メソトレキセート), bleomycin (BLM, ブレオ), etoposide (ETP, VP-16, ラステット), cytarabine (Ara-C, キロサイド), fludarabine (2F-Ara-A, フルダラ), mercaptopurine (6-MP, ロイケリン),

<超高悪性度非ホジキンリンパ腫> 急性リンパ性白血病(ALL)に類似した積極的な治療が行われる

cyclophosphamide (CPA, エンドキサン), vincristine (VCR, オンコビン), doxorubicin (Adriamycin, ADM, アドリアシン), methotrexate (MTX, メソトレキセート), cytarabine (Ara-C, キロサイド), ifosfamide (IFX, イホマイド), etoposide (ETP, VP-16, ラステット), carboplatin (CBDCA, パラプラチン),

#### 4) その他の治療

##### (1) 症状緩和的な特異的治療

なし

## 9. 略語一覧

AILT	Angioimmunoblastic T-cell lymphoma	血管免疫芽球型 T 細胞リンパ腫
ALCL	Anaplastic large cell lymphoma	未分化大細胞リンパ腫
ATLL	Adult T-cell lymphoma/leukemia	成人 T 細胞白血病/リンパ腫
CLL	Chronic lymphocytic leukemia	慢性リンパ性白血病
DLBCL	Diffuse large B-cell lymphoma	びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫
EBV	Epstein-Barr virus	Epstein-Barr ウイルス
FISH	Fluorescence in situ hybridization	蛍光 in situ ハイブリダイゼーション
FL	Follicular lymphoma	濾胞性リンパ腫
HRS	Hodgkin/Reed-Sternberg 細胞	
ISH	in situ hybridization	in situ ハイブリダイゼーション
LBL	Lymphoblastic lymphoma	リンパ芽球性リンパ腫
MALT	Mucosa-associated lymphoid tissue	粘膜関連リンパ組織
MCL	Mantle cell lymphoma	マントル細胞リンパ腫
MZBCL	Marginal zone B-cell lymphoma	辺縁帯 B 細胞リンパ腫
SLL	Small lymphocytic lymphoma	小細胞性リンパ腫



**10. 参考文献**

- 1) 日本臨床腫瘍学会編 新臨床腫瘍学 (南江堂)
- 2) UICC TNM 悪性腫瘍の分類 第7版 日本語版 (金原出版)
- 3) SEER Summary Staging Manual 2000
- 4) AJCC Cancer Staging Atlas (Springer)
- 5) 国立がんセンター内科レジデント編 がん診療レジデントマニュアル (医学書院)
- 6) 解剖学講義 改訂2版 (南山堂)
- 7) 菊地昌弘、森 茂郎 編 最新悪性リンパ腫アトラス (文光堂)
- 8) 日本血液学会 日本リンパ網内系学会編 造血器腫瘍取扱い規約 第1版 (金原出版)